

< 訳文 >

## サスカチュワンにおける成功：パートナーシップの向上

演説草稿

サスカチュワン州首相 ローン・キヤルバート

於： 在日カナダ商工会議所 昼食会  
2005年10月27日(木)  
東京

ご紹介どうも有難うございました。

さて、本日、この昼食会にご招待いただき、日本とサスカチュワン州が共有している色々な機会やパートナーシップについてお話できる事を、皆様にお礼申し上げます。

国外としては二番目に大きいカナダ商工会議所の皆様にお会いできるのは光栄です。私の見解では、皆様が日本におけるカナダのビジネス関係者、および日本市場に参入を計画している人々のために果たされている役割は、サスカチュワン州にとって極めて重要なものだと考えております。

私にとって今回の日本訪問は初めてであり、これまでに受けた暖かい歓迎と、手厚いおもてなしを大変嬉しく思っております。皆様の多くは、すでにご存知ですが、日本とカナダ、日加両国の市民および実業界の間には、昔から永く続いている絆があり、今回の訪日の目的はこの絆を更に強めることです。

この目標を達成するために、以下の事柄を行うことが日加両国相互の利益になると私は思っております。

1. サスカチュワン州が本来持っている強みをさらに進展させる。
2. 研究とイノベーション部門において協力し、さらに伸展させる。
3. 経済的な取組みの領域を拡大する。

これらの項目を詳しくご説明する前に、サスカチュワン州の最近の進展の幾つかについてご報告させて頂きたいと思えます。つい先月、我々はサスカチュワン州の経済に関する新しいアクションプランを発表いたしました。

国際貿易の拡大と投資の推進はこのアクションプランの重要な一部分ではありますが、これは州政府単独の計画ではありません。今年の一月に開かれた州の経済首脳会議で、これまで多大な努力をはらって実現させた繁栄の安定化を図るために、企業、労働者、研究者、教育者、青少年、先住民の代表者達が共通のビジョンを打ち出したのです。

我々が協力して作り上げたこのアクションプランの目的は、我が州の豊かな天然資源を基盤にし、新しいテクノロジーを駆使して、競争力とイノベーションにおける成功をさらに拡大し、我が州の多様化された、成熟し安定した経済を、より一層、拡大させることです。

この計画の主な要素は貿易と海外投資の拡大であり、そのために私は先週、香港と北京で同様な目的の訪問をすませて、本日、東京を訪れている幸いです。

国連と WTO (世界貿易機関) の統計によりますと、日本は農産物、工業製品および商業サービスの市場として、また技術革新の発信地として、世界上位 5 カ国にランクされています。

さらに、同統計によると、日本の直接海外投資額は世界の上位に達しております。また、隣国である中国との経済的統合は急速に進行しつつあり、その結果、日本、中国、またはその両国との商業活動に関心を持っているサスカチュワン州の企業にとって日本は、有望な基盤、および将来性のあるパートナーとなっています。

もちろん、日本はカナダにとっては三番目に大きい輸出市場でもあり、アジア・太平洋地域における重要な友好国であります。日加両国間の貿易と投資額は、毎年、400 億カナダドル (日本円でほぼ 4 兆円) を上回っています。

日加貿易関係は平等な協調関係に基づいており現在ほどよい均衡が保たれております。カナダの対日輸出額は 100 億カナダドル弱 (日本円で約 1 兆円)、日本の対加輸出額は同額を少々上回っています。

日加貿易関係は長期的なもので成熟しており信頼できる関係にあります。特にサスカチュワン州は日加貿易の重要な州になっております。

カナダはエネルギーの超大国です。皆様は驚かれるかもしれませんが、サスカチュワン州は、このエネルギー超国内で強力な役割を果たしています。現在、カナダ全体のエネルギー産出量の三分の一、33%を生産しており、今後も大いに成長する余地があります。

例えば伝統的な石油と天然ガスの分野では現在世界的な高値の趨勢ですが、サスカチュワン州の地下には 1 兆カナダドル (約 96 兆円) もの石油が埋蔵されております。しかし、この大部分は採掘が困難な状態にあります。我々はこれを克服するための新しい技術の開発を進めております。

この様に、隆盛なエネルギー部門と強力な製造部門、さらには堅実な天然資源経済を併せ持ったサスカチュワン州は、現在カナダ国内で最も豊かな州の一つになっております。我が州は今後も発展を続け、貿易および投資の両分野でさらに良好な機会を創出するでしょう。

経済指標は上向きであり、経済成長の見通しも大変明るいものです。カナダ統計庁によりますと、1992 年から 2003 年までの、サスカチュワン州の一人当たり GDP (国内総生産) の成長率は、カナダ国内で三位にランクされています。

2003 年および 2004 年に、サスカチュワン州の実質 GDP (国内総生産) の総合成長率は 8.1% で、カナダ国内で最高を記録しました。

昨年、サスカチュワン州の生産性向上率はカナダ国内でトップを占め、その上、昨年の我が州の輸出は18%以上増加し、製造・加工品の出荷量の増加も、カナダ全国平均の3倍に達しました。

さらに今年のサスカチュワン州における投資の伸びも12%を越える見込みで、これはカナダ国内平均値の2倍以上となっております。もちろん、日本からの投資も大いに歓迎いたします。

## サスカチュワン州の本来持つ強みの進展と拡大

サスカチュワン州と日本はエネルギー部門や農産食品産業において、おのおのが本来持っている強みを基に、協力して多くの成功をおさめてきました。これは事実ですが、私たちはさらに多くを成し遂げることができます。

先ほど申し上げましたが、サスカチュワン州はカナダのエネルギーの三分の一の量を生産しており、州の地下に埋蔵されている1兆カナダドル(約96兆円)相当の原油を採掘して精製するために必要な、新しい技術の開発を進めております。

さらに、エネルギー源の多様化にも努力しており、エタノール、風力、生物燃料(biofuel)や、水素(hydrogen)までも代替エネルギー源として開発を促進させております。

我が州は、日本における55基の原子炉に使われているウランの重要な供給国です。実際に、これは何を意味するのでしょうか。答えを簡単に申し上げれば、まず、この部屋の電球や電飾をご覧になって下さい。このうちの一割がサスカチュワン産ウランにより発電された電気で点灯されているのです。

さて、次の段階をお考えになって頂きたいと思います。現在、サスカチュワン産ウランの約5%が日本に輸出されております。私としましては、この関係をさらに拡大して頂きたいと考えている次第です。

日本は、原子力発電による電力の供給を2050年までに倍増する計画を発表しております。これらの新しい原子炉がサスカチュワン産ウランによって稼動する事を願っております。

サスカチュワン州の潜在力は、エネルギーだけでも目を見張るものがありますが、我が州本来の強みはエネルギー分野のみに限られておりません。我が州の地下には、驚異的な量の塩化カリが埋蔵されています。将来、高い品質の食品および食品の生産を求める世界において、わが州に埋もれている、この肥料の原料に対する需要が高まるのは明らかです。

これまで塩化カリの生産量を拡大してまいりましたが、今年は採掘権に関する法律を一部改正した結果、業界は6億カナダドル(約580億円)の新規投資に踏み切ったしいです。

農業は我が州の貿易の重要な部分を占めており、我が州が生産するカノーラの半分以上が日本に輸出されております。我々にとって日本は良い市場であり、世界で最も高品質の植物性食用油を、日本の食卓に提供させて頂いております。

また、「小麦州」として永い歴史を持っているサスカチュワン州の貿易の中で、穀物が重要な要素となっている事は驚くにあたりません。これは、単に原料に限られておらず、長年にわたる密接な業務関係によって、ビール醸造や、ベーカリー製品のような分野でもうれしい進展を見えています。

さて、ここで現在、日加両国の農業貿易で取り扱われていない事柄に触れたいと思います。ご存知の様に2年半前にカナダ国内で一頭のBSE（狂牛病）感染牛が発見されました。発見された牛の群だけでなくカナダ中の牛にBSEの感染が拡大していない事を確認しましたが、世界中の国々でカナダ産牛肉への門戸が閉ざされました。カナダにBSEは広がっていませんでした。

カナダは、家畜飼料規制およびサーベイランスの強化、家畜の個体追跡および認識システムの改善など、問題是正のための段階を踏んできました。我々は国内の科学者や研究者と共にこれらの問題に取り組み、その成果を確認するため、世界中の科学者や専門家を喜んで迎え入れました。

今日、アメリカ、メキシコ、香港、マカオなどの国々で輸入が再開されたのはとても喜ばしいことです。

カナダおよびサスカチュワン州は、食の安全性における最高の水準を維持したいとする日本の強い主張を認め、これを尊重いたします。

さらに、カナダおよびサスカチュワン州は、輸入再開の判断は確固たる科学的根拠に基づくとする日本の見解を称賛し、このような日本の立場と信条に我々も共鳴いたします。

現在、米国は、カナダが動物衛生と安全性および貿易に関し最も高い国際基準を順守していると信頼しています。これに従い、米国はカナダ産牛肉の輸入を再開しました。我々は、日本も同様にしていただけよう望んでいます。

## 研究とイノベーションにおける成功の進展

前に、ビールの醸造およびベーカリー製品の生産についての成功例にふれましたが、これらは我々がいつも強調している研究開発推進の成果の良い例でしょう。

ビールの醸造に関しては、サスカチュワン大学のBryan Harvey博士が、サッポロビールとここ10年の間、同社のモルト製造法による製品の品質向上に協力しております。

私が嬉しく思っているのは、サッポロビールのファンはサッポロビールを飲むたびに、僅かながら、サスカチュワンの味を楽しんで頂いている事です。

農業に関連する産業では、サスカチュワン州のCanMar Grains（穀物）社のCecil Warner氏が、同社の開発したGolden Roasted Flax Seed（黄金色にローストした亜麻仁）を使った新製品を作り出して、現在、日本製粉がベーカリー製品に使用しております。

CanMar Grains (穀物) 社の成果は、サスカチュワン州の会社が日本の市場に力を入れ、人材、資材と時間をかけて顧客の理解を深め、日本人の嗜好にあわせるための製品改良などに力を注いでいることを実証しています。また、特定の新製品のメリットについて、日本のベーカリー産業および消費者にたいする啓蒙活動を実施して、輸入業者のサポートにも活躍しております。

私は、サスカチュワン州がいかに研究とイノベーションに真剣に取り組んでいるかを実例を挙げて説明するために、この二つのイニシアチブについて、皆様のご注意を喚起させて頂きました。

サスカチュワン州の研究活動は我が州の二つの大学と、二つのリサーチ・パークが中心になっております。さらに、サスカチュワン大学に昨年の10月に設立された、世界の最先端に行くシンクロトロンによって、研究体制も強化されています。

シンクロトロンは原子的な尺度で物質を見せてくれます。このような研究施設を持っている事は、物理、生物、化学および地学などと、科学的なあらゆる分野の研究に利用できるのも、スピン・オフによって生ずる色々な利益や好影響は測り知れません。

応用できる方面は広く、環境のモニタリング、新しいコンポジット(複合)材料や、より最先端の医薬品の開発、情報工学、生物医学的移植、その他、針の目を通せるほど微細な、電気モーターを内蔵したナノ構造物、などの研究開発に利用できます。

この Canadian Light Source Synchrotron (カナダ・シンクロトロン光源)は、サスカチュワン大学が所有権を100%保有しており、同大学によって運営されております。開業してから一年を経過しており、世界中から科学者を引き付けております。広い、豊かな分野にわたる新しい産業の成長を促進し、新しい学術的なパートナーシップが育成される事は明らかであります。

ここで明確にしておきたい事は、サスカチュワン州の意図は、研究とイノベーションを単なる学術的探究で終わらせない様、引き続いてこれらの新発想を商業化する次の段階まで進める事にあります。

現在、サスカツーン市のイノベーション・プレイスと、それに関連しているレジャイナ市のリサーチ・パークは、研究によって開発された製品を商業的応用に移す施設のモデルとして世界的に注目されております。

我が州の成長しつつある製造部門にとって、これは無視できない大切な事実です。

熟練した労働人口と高い水準の教育制度と共に、幸運にも、北米大陸のほぼ中央に位置している有利な地理的条件、米国およびカナダ全土を容易にアクセスできる発達した便利な交通網と相まって、サスカチュワン州は生産施設を設けるのにきわめて好適地です。

日立製作所が一番いい例でしょう。日立とサスカチュワン州の関係は1988年以来で、日立が海外に初めて製造工場を建設する場所として、サスカチュワン州を選ばれた事は非常な名誉だと思っております。

サスカツーン市で日立は高品質の重電機器を生産しており、その製品はサスカチュワン州民のための電力供給に一役買ってあり、さらに、北米全体に製品が輸出されております。

## 経済関係の拡大

日本とサスカチュワン州の経済関係を拡大するチャンスは、研究とイノベーションおよび、それに起因する、より活発な製造部門の領域を超えた所にもあります。

強い、成長しつつある商業関係以外に、サスカチュワン州は自分の楽しみのために旅をする絶好のチャンスと、自己啓蒙の機会を提供してくれます。

サスカチュワン州は、他の観光地とは全く違います。我が州の歴史と地理的条件は他に類がありません。

サスカチュワン州における先住民族の文化は何千年も続いた歴史を誇り、今日も、First Nations (ファースト・ネーションズ〔注〕先住民族/インディアン) および Metis (メティス〔注〕先住民族とヨーロッパ出身の人々の両方を祖先とする人々) の人達の伝統として繁栄しております。

ヨーロッパの文化は約250年前に毛皮の取引と一緒に現れ、その100年後にヨーロッパからの永住者が入植しました。彼らの出現によって、サスカチュワンは州としてカナダ連邦に参入できたのです。

サスカチュワン州は、すばらしい文化の多様性を持っており、それは州のモットー、"From many Peoples, Strength (多民族の力)" に反映されております。

このモットーと同時に、サスカチュワン州の風土が我々を形づくっています。我々は "Land of Living Skies (生き生きと変化する空がみえる土地)" と呼んでおり、まず観光客の目につくのは、夕日、地平線、夏の雷雨、それとオーロラでしょう。

サスカチュワン州の面積は約65万平方キロメートルで、一般に信じられている事に反して、州の半分以上が森林で覆われております。その森林の面積はドイツの面積に匹敵します。州の面積の三分の一は農地であり、典型的な絵葉書に見られる大平原のイメージそのものです。

もう一つ驚くべきことは、州の面積の八分の一が淡水湖によって覆われていることです。10万以上の湖や河川があります。

地形の多様性は見事なものです。我が州の国立、州立自然公園は素晴らしいハイキング・コースと野生生物観察への入り口であります。大変人気のある、野生生物の原生地域では、容易にアクセスできる場所もあり、水上飛行機、または、馬を利用するか、徒歩で行ける所もあります。

広範囲におよぶ趣味や好みに合わせる事ができる、農場や牧場で休暇を楽しむ施設が多くあり、カウボーイ・アドベンチャーから、先住民の Tepee と呼ばれるテント小屋での野営まで、企画が数多くそろっております。ファーム・ステイでサスカチュワン州を一番有名にしている農業をよく知ることができるでしょう。

しかし、観光客は何よりもサスカチュワン州の人たちを記憶にとどめられるだろうと、私は思います。我が州民は心が温かく、友好的で、本当にお客さんに対して心をくばり、皆さんの訪問が特別な思い出となるように配慮してくれるでしょう。

ビジネス、勉強、研究などのために、あるいは、単なる観光の目的で、カナダと我が州をより多くの日本人が、たずねてこられるよう私たちは望んでいます。人と人の触れ合いは相互に学び合うにも、またどのようなビジネスの機会を追求するにも、最上の手段だと思います。

最後に結びといたしまして、お互いに共有できる機会をもう一度、まとめておきたいと思いません。

- 1 . サスカチュワン州が本来強みとしている農業、鉱業および製造業を基盤にして、さらに伸展させる機会
- 2 . 研究とイノベーションにおいて協力し、さらに伸展させる機会
- 3 . 観光関連の素晴らしい機会を含めた、経済関係の領域を拡大する機会

我々是一緒に仕事をして成功させた歴史があり、この歴史的事実と現在の非常に良い交流関係を基に成果を積み上げる事によって、日加両国およびサスカチュワン州が、引き続いて恩恵を享受できる事を大いに期待しております。

ご清聴ありがとうございました。

もし、ご質問がございましたら、喜んでお答えしたいと思います。

Check against delivery (注：実際の演説と内容が異なることがあります。)